



「子どもたちとともに」

「自分は英語でコミュニケーションがとれる！」そう子どもたちに感じてほしいという思いで、4月から授業をしています。しかし、子どもたちがそう思える授業ができていないのかと悩むこともあります。だからこそ、子どもたちの「できた！」という声やキラキラした表情を想像しながら、より良い授業を求め続けることを大切にしています。子どもたちが日々成長していく姿を見て、私自身も成長し続けていきたいと思います。また、子どもたちと接していると、この子たちがいるからこそ、私は先生として毎日楽しく過ごすことができるということを実感します。これから先も、目の前の子どもたちに愛情を注ぎ続けられる教員でありたいと思います。

黒滝中学校 高橋 季衣



「生徒と関わる事で自らも学んでいく仕事」

私は教員になる前、企業で働いていました。転職して変わった事は“生徒のために苦勞ができる事”。もちろん前職でもやりがいにはありましたが、人の成長に携わる責任は重く、とても尊いものだと感じます。

秋頃、担当学年ではない生徒を指導する機会がありました。週2回美術を教えている生徒ですが、話をしに行くと、教員に対する嫌悪感を抱え、表情も暗い状態でした。私がお子のために唯一できた事は、その子への思いを全力でぶつける事。難しい事ですが、そうすることで前を向ける生徒がいる事を、その生徒が教えてくれました。生徒の成長の力添えになるため、ともに成長していくこと。この思いを芯にこれからも頑張っていきます。

榛生昇陽高等学校 太田 敦子



「“子どものため”を考えて」

子どもと一緒に成長していける毎日に充実感を感じています。しかし、授業や子どもとの関係がうまくいかず、落ち込んだり悩んだりすることも多々あります。その度に周りの先生方や同じ初任者の仲間に相談したり一緒に考えたりし、助けられながら日々過ごしています。悩みながら考えた授業がうまくいったとき、子どもたちの笑顔を見て、自分も笑顔になります。日々、いろんなことがある中で、少しずつでも確実に成長していく子どもたち。自分は教員として、子どもたちの成長・発達を全力でサポートしていきたいです。そして、子どもの心を受け止めて支えられる立派な教員になれるように、自分も子どもたちと一緒に成長していきたいです。

二階堂養護学校 秋光 平天下



「生徒の力を信じ愛し続ける」

廊下から聞こえる元気な声を聞きながら、毎日楽しく働いていますが、時折「しんどいねん」と保健室に来室する生徒もいます。そんな時、この倦怠感を表す言葉にどんなメッセージが隠れているのかを見逃さないようにしています。言葉だけを鵜呑みにするのではなく、顔色、表情、仕草や体温・脈拍等、生徒が発する情報を整理し、「本当は何を訴えているのか」、「言葉の裏に隠れるメッセージは何なのか」を探り、日々対応を考えるようにしています。優しい言葉なのか、休養なのか、それとも厳しさや励ましの言葉なのか。生徒の持っている力を信じ、そして、生徒を愛し、これからも一緒に成長していきたいです。

生駒高等学校 養護教諭 吉田 澄絵